

今後の読書活動推進に向けた課題

①子どもを含む市民の読書活動の推進

ほぼ順調に推移する小中学生の読書活動の推進を継続するとともに、高校生及び成人の読書活動の推進が必要
・小中学校への読書支援をこれまでどおり継続することが必要
・高校生及び成人への読書推進の充実を図ることが必要
・特別支援学校などと連携した子どもの読書活動支援が必要
・子ども読書活動に関わるボランティアの人材育成が必要

②レファレンス・課題解決型サービスの更なる強化

市民ニーズに対応するため、レファレンス・課題解決型サービスの、これまで以上の強化が必要
・レファレンスに的確に対応できる図書資料を始めとするレファレンスツールの充実が必要
・地域資料や地域の課題解決に役立つ情報を収集提供し、人づくり・まちづくり活動を支援する役割を担うことが必要
・レファレンスに対応できる司書の能力向上が必要

③ICTの導入促進と電子情報サービスの充実

普及が進んでいる電子図書の導入検討, 高度化するICTへの対応など, 市民ニーズに対応できる資料や設備の充実が必要
・データベース・インターネット情報提供の充実が必要
・デジタルアーカイブ(古文書など貴重本の保存体制の整備)の推進が必要
・電子図書等, 新たな媒体の普及が必要

④図書館の環境整備と適切な図書館運営

市民ニーズを踏まえた適切なサービスを提供できるよう, 読書環境の充実やバリアフリー化を進めるとともに, 図書館運営の充実が必要
・幅広い年齢層の利用者のほか, 障がい者や外国人などを対象に実施しているさまざまな図書館サービスの充実と, 市民に広くPRすることによる, 更なる利用の促進が必要
・ユニバーサルデザインに配慮するなど, 快適で誰もが利用しやすい施設への再整備が必要
・中央館機能の向上や指定管理者制度の運用など, 効果的・効率的な管理運営体制の充実が必要

基本理念

「市民や地域の課題解決支援やICTへの対応など, 読書環境の整備を図るとともに, 子どもを含めた市民の読書活動を推進します。」

基本目標

1 多様な図書館サービスを利用するなど, あらゆる市民が読書活動に親しんでいます。

基本指標1 図書館資料の貸出冊数 4,566,016点(H23) ⇒ 5,000,000点(H29)
基本指標2 図書館の登録率 33.1%(H23) ⇒ 34.6%(H29)

2 図書館, 地域, 学校の連携のもと, 小中高生が読書活動や学習活動に励んでいます。

基本指標3 高校生の1か月の読書量 1.4冊(H23) ⇒ 2冊(H29)
基本指標4 子ども読書に関わるボランティアの活動人数 1,236人(H24) ⇒ 1,600人(H29)

3 個人や団体, 地域が図書館サービスを利用し, それぞれの課題を解決しています。

基本指標5 レファレンスサービスの使用度 68.7%(H23) ⇒ 71.0%(H29)

4 市民が高度情報化に対応した資料や設備を利用し, ニーズに応じたデジタル情報を活用しています。

基本指標6 図書館におけるデジタル情報及びデータベースの利用件数 223件(H23) ⇒ 1,000件(H29)

5 図書館の適切な環境整備と運営により, 市民が快適に図書館を利用しています。

基本指標7 図書館の読書環境に関する利用者満足度 82.0%(H23) ⇒ 85%(H29)

基本施策

基本施策1 市民の読書活動の推進

施策1 さまざまな市民の読書活動の推進

多様な市民ニーズに対応するため, 図書館においては計画的な資料・情報の収集・提供や幅広いPRに努めるとともに, 関係機関等が連携し, 市民の読書活動を支援する。
・市民ニーズに幅広く対応した図書館による資料・情報の提供
・読書推進団体の取組のPR

施策2 子どもの読書活動の推進(第3次子ども読書活動推進計画部分)

小中学生への読書支援を継続する一方, 読書離れが続く高校生に対して読書推進の充実を図るとともに, 家読の促進, 読み聞かせボランティア等の育成・充実を図り, 子どもの読書活動を推進する。
・学校図書館支援の実施
・おはなし会や宮っ子ふれあいブック等, 読書のきっかけ作りの提供

施策3 レファレンス・課題解決型サービスの強化

市民や地域の課題解決, 学習活動を支援するため, 図書館の資料の充実やレファレンスツールの発信, 司書の能力向上等を図る。
・データベースやパスファインダーの作成・提供
・ビジネス支援・生活支援サービスの実施

施策4 ICTの推進や電子情報の活用促進

市民がより早く適切な情報を入手するために, 図書館におけるICT環境の更なる充実や, 次期図書館情報システムの構築などにより, 市民の電子情報の活用を支援する。
・図書館情報システムの更新

基本施策2 適切な図書館運営や環境の整備

施策5 効果的・効率的な管理運営体制の充実

南図書館に一部導入した指定管理者制度の効果検証, 他の図書館への導入検討など, 民間活力の更なる活用, 他機関との連携など, 効果的・効率的な管理運営を進めていく。
・管理運営体制の充実及び民間活力の導入の推進

施策6 施設の再整備の計画的な推進

市民が快適に読書活動を行えるよう, 各図書館の現状を把握するとともに, 今後求められる機能や市民ニーズ等を踏まえ, 老朽化した施設設備の計画的な更新整備, 施設の長寿命化など, 施設の再整備を計画的に進めていく。
・中長期的な施設設備の維持管理・整備方針の策定

読書推進における現状と課題

本市図書館の現状

- 5館体制で、17のサービスポイント
- 貸出数(4,566,016冊)、利用者数(892,889人)、蔵書数(1,648,510点)、いずれも中核市トップクラス(数値は平成23年度のもの)
- 特色あるサービスの展開
 - ・中央図書館：地域資料・行政支援・障がい者
 - ・東図書館：科学技術情報、ビジネス情報
 - ・南図書館：子ども、学校支援、子育て・家庭教育支援
- 施設の老朽化
 - ・中央図書館：築後31年
 - ・東図書館：築後20年
 - ・上河内図書館：築後20年
 - ・河内図書館：築後26年
- 南図書館への指定管理者制度の導入(平成23年度)

図書館を取り巻く状況

◆社会情勢の変化

- 高度情報化社会の進展**
 - ・インターネットや電子図書の普及等、多くの情報が氾濫し、その取捨選択が求められている。一方、情報弱者と呼ばれる市民との格差はますます拡大している。
- 高齢社会の進行と市民ニーズの高度化・専門化**
 - ・急速な高齢社会の進行や市民の価値観の多様化に伴い、その興味・意識も高度化・専門化が進んでおり、施設設備においても図書館はさまざまな市民ニーズに対応していく必要がある。
- 読書量の低下**
 - ・国民の読書量が低下している。
 - ・中学・高校と進むにつれ、塾や部活動などに忙しくなり、読書の時間を取りづらい状況にある。

◆国や県の動向

- 「図書館法」の改正(平成20年6月)
 - ・収集すべき資料に『電磁的記録(CD・DVD、データベース等)』を追加
- 「栃木県立図書館あり方検討委員会報告書」(平成24年1月)
 - ・県立図書館と市立図書館の役割分担について等

◆「(仮称)第2次地域教育推進計画」

- 概要 「みや図書館サービスプラン」の上位計画として、今年度、策定作業を進めている計画
- 今後の地域教育推進の課題
 - ① 学びによる人間力の向上：地域住民が人間力を高めるための学習環境を整える必要がある。
 - ② 地域を支える人材の育成：まちづくりの主体となる人材等の育成を進める必要がある。
 - ③ 地域を構成する各主体の支援、連携強化：家庭、学校、地域団体、企業など地域を構成する各主体の教育活動や学びに対する支援等を図る必要がある。
 - ④ 地域における学習成果の活用：地域における学習成果の活用を促進する必要がある。

◎課題

- 高度情報化への対応**
 - ・市民が求める情報要求に対応していくことが必要
 - ・高度化するICTに対応するためには、施設・設備の改修等が必要
- 高齢化や多様化する市民ニーズへの対応**
 - ・多様化する市民ニーズに伴い、高度化・専門化するレファレンスに対応できる司書の育成、資料の充実等が必要
 - ・高齢社会の進行に伴い、施設のバリアフリー化が必要
 - ・特別支援学校などに対する読書支援が必要
- 若年世代の読書活動の推進**
 - ・若年世代を中心に、読書活動を推進していくことが必要
- 県立図書館等との連携**
 - ・適切な市民サービスを提供するために、県立図書館等との役割分担・連携強化を図っていくことが必要
- 人づくりやまちづくり支援への対応**
 - ・個人への課題解決支援だけでなく、地域の課題を解決するための人づくりやまちづくり活動への支援が必要

今後の読書推進に向けた課題

①子どもを含む市民の読書活動の推進

- ほぼ順調に推移する小中学生の読書活動の推進を継続するとともに、高校生及び成人の読書活動の推進を図る。
- ・小中学校への読書支援をこれまでどおり継続することが必要
 - ・高校生及び成人への読書推進の充実を図ることが必要
 - ・子ども読書活動に関わるボランティアの人材育成が必要
 - ・特別支援学校などと連携した子どもの読書活動支援が必要

②レファレンス・課題解決型サービスの更なる強化

- 市民ニーズに対応するため、レファレンス・課題解決型サービスの、これまで以上の強化が必要
- ・レファレンスに的確に対応できる図書資料を始めとするレファレンスツールの充実が必要
 - ・地域資料や地域の課題解決に役立つ情報を収集提供し、人づくり・まちづくり活動を支援する役割を担うことが必要
 - ・レファレンスに対応できる司書の能力向上が必要

③ICTの導入促進と電子情報サービスの充実

- 普及が進んでいる電子図書の導入検討、高度化するICTへの対応など、市民ニーズに対応できる資料や設備の充実を図る。
- ・データベース・インターネット情報提供の充実が必要
 - ・デジタルアーカイブ(古文書など貴重本の保存体制の整備)の推進が必要
 - ・電子図書等、新たな媒体の導入検討が必要

④図書館の環境整備と適切な図書館運営

- 市民ニーズを踏まえた適切なサービスを提供できるよう、読書環境の充実やバリアフリー化を進めるとともに、よりよい図書館運営体制の構築を図る。
- ・障がい者や外国人、幅広い年齢層の利用者を対象に実施しているさまざまな図書館サービスを、市民に広くPRするまで、更なる利用の促進が必要
 - ・ユニバーサルデザインに配慮するなど、快適で誰もが利用しやすい施設への再整備が必要
 - ・中央館機能の向上や指定管理者制度の運用、他機関との連携など、効果的・効率的な管理運営体制の充実が必要

市民の意識

◆市民意識調査

- ・**図書館の利用目的**
「本を無料で利用するため」(56%)、「調べもののため」(51%)の回答が多い。
- ・**図書館等を利用しない理由**
「必要がない」(43%)、「時間がない」(39%)の回答が多い。
- ・**図書館に望むこと**
「調べたいことがわかる本がある」(81%)、「読みたい本が豊富にある」(80%)、「必要な本が探しやすい・すぐ手に入る」(79%)の回答が多い。

◆図書館利用者アンケート

- ・**図書館での充実の希望**
「本や雑誌、新聞の充実」(30%)、「CDやDVDなどの充実」(21%)、「本を読みやすい机や椅子を用意する」(14%)などの希望が多い。
- ・**図書館が目指すべき方向性**
「趣味や仕事の参考になる本や情報を増やす」(20%)、「人気の本を増やし、予約待ちを減らす」(19%)などの意見が多い。
- ・**インターネットの利用の有無**
「利用する」(71%)との回答だった。10代から50代はいずれも70%以上の利用率であり、特に20代は90%以上が利用している。

◆一般読書アンケート

- ・**読書や調べものに必要な本の用意のしかた**
「図書館で借りる」(55.2%)、「購入する」(27.7%)の回答が多い。

◆高校生読書アンケート

- ・**本を読まない理由(第2次調査時との比較)**
「読みたいが読めなかった」が増加。理由として「勉強・塾等で時間がなかった」が顕著に増加している。
- ・**市の図書館に望むこと**
「学習設備(机や椅子)が整っている」ことが増加。

「みや図書館サービスプラン」の評価

施策1：図書館図書空間のネットワークや関連機関との連携体制の整備

- 指標 予約数
234,647件(H18) → 281,576件(H24)
現状 538,758件(H23)
HPアクセス件数
251,909件(H18) → 302,291件(H24)
現状 571,797件(H23)

⇒ 順調

施策2：小中学校図書館との連携体制強化と学校や教職員への支援

- 指標 学校希望図書貸出冊数
2,604冊(H18) → 3,125冊(H24)
現状 23,090冊(H23)
学校希望図書利用学校数
46.2%(H18) → 100%(H24)
現状 92.5%(H23)

⇒ 概ね順調

施策3：ICTを導入した高度な情報提供の推進

- 指標 インターネット閲覧可能パソコン台数
中央3台、東4台、上河内・河内各1台(H18) → 中央・東各10台、上河内2台、河内4台(H24)
現状 南10台導入(H23)

⇒ 順調ではない

施策4：レファレンスと課題解決型サービスの充実

- 指標 レファレンスに対する利用者満足度
42.6%(H18) → 52.6%(H24)
現状 52.6%(H23)
パスファインダーの作成件数
5件(H18) → 30件(H24)
現状 19件(H23)

⇒ 概ね順調

施策5：さまざまな利用者に対応したサービスの充実

- 指標 中・高校生の年間貸出人数
30,140人(H18) → 33,277人(H24)
現状 31,101人(H23)
総登録者数
166,165人(H18) → 182,892人(H24)
現状 169,379人(H23)

⇒ 順調ではない

施策6：市民ニーズに応じた効果的・効率的な管理運営

- 指標 館内の読書環境に関する利用者満足度
66.1%(H18) → 80%以上(H24)
現状 82.0%(H23)

⇒ 順調

「第2次子ども読書活動推進計画」の評価(指標の達成度による評価)

(1)子どもの1か月の読書量

- 小学生：20.1冊(H20) → 20冊(H25) 現状 28.5冊(H23)
中学生：6.2冊(H20) → 9冊(H25) 現状 8.4冊(H23)
高校生：1.7冊(H20) → 3冊(H25) 現状 1.4冊(H23)
・高校生については、計画策定時より読書量が減少している。小中学生は、いずれも読書量は増加しており、中学生は目標値には至らないものの、小学生は目標値を大きく超えている。

⇒ 概ね順調

(2)読書に対して肯定的な考えを持つ子どもの割合

- 小学生：80.0%(H20) → 85.0%(H25) 現状 86.5%(H23)
中学生：45.0%(H20) → 55.0%(H25) 現状 50.6%(H23)
高校生：53.6%(H20) → 65.0%(H25) 現状 54.1%(H23)
・中学生・高校生については、若干ではあるが、計画策定時より読書について肯定的な考えを持つ子どもが増えた。小学生については、読書について楽しいと感じる子どもが目標値を超えて増加している。

⇒ 概ね順調

(3)市図書館と学校図書館の総貸出数

- 5,035,901冊(H20) → 6,000,000冊(H25)
現状 6,522,092冊(H23)
・市図書館、学校図書館のいずれにおいても、貸出冊数は計画策定時より増加している。

⇒ 順調

(4)子どもの読書にかかわるボランティアの活動人数

- 1,642人(H20) → 1,800人(H25)
現状 1,236人(H24)
・計画策定時と比較し、特に小中学校における読み聞かせボランティアの人数が減っているため、全体の実績が減少した。

⇒ 順調ではない

平成24年度 第1回「(仮称)第2次宇都宮市図書館機能・サービス向上計画」に係る意見交換会の結果について

- 1 開催日時 平成24年11月14日(水) 15:05～17:00
- 2 開催場所 宇都宮市立中央図書館集会室(3階)
- 3 出席者 (仮称)第2次宇都宮市図書館機能・サービス向上計画に係る参考人 10名

4 内容

本市図書館サービスの現状と課題及び「(仮称)第2次宇都宮市図書館機能・サービス向上計画」の骨子(案)についての意見聴取

【主な意見】

(1) 読書活動の推進について

- ・ 空教室やオリオン通りなど人が集まるところに、利用者へのサービスポイントを増やしてはどうか。サービス拠点のネットワーク作りが大切である。
- ・ 県と市が連携して本を有効活用してはどうか。

(2) 子どもの読書活動の推進について

- ・ ボランティア確保のための参考意見として、清原南小では読み聞かせボランティアは地域協議会の中の教育支援部会に所属し年2回の研修会の実施や学校図書館司書との連携により確保できている。

(3) レファレンス・課題解決型サービスの強化について

- ・ 図書館の業務の中でレファレンスが大切である。漠然とした質問・要求に応えるには力量がいる。利用者との言葉のやりとりの研修は重要である。
- ・ 高齢化社会となり、行政が行う分野以外の地域で担う部分が増えてきているので、地域の活性化に役立つ図書館にしてほしい。
- ・ いろいろな情報を市役所、センターは持っている。それらとネットワークを結びレファレンスに役立ててはどうか。
- ・ 司書はサービスを展開するのに重要であるが、年齢の偏りが気になる。将来に向けて人材確保が必要である。
- ・ 図書館は人が集まる情報発信の場。役所で作ったものを図書館に置けば情報源として有効に活用でき活性化につながる。
- ・ 図書館に地域活動推進コーナーを設けてほしい。
- ・ 「(仮称)第2次宇都宮市図書館機能・サービス向上計画」骨子(案)の基本施策

社会総ぐるみによる人づくりの提言について

◎ 趣 旨

平成23年8月に設置した「宇都宮の人づくりを考える会議」により、平成24年11月8日に提出された「宮っこ未来ビジョン実現に向けた提言書」について、その内容等を報告するもの

1 設置目的

宮っこ未来ビジョンの実現に向けて、行政主導から市民協働による教育システムの充実を図るとともに、市民運動として社会総ぐるみの取組みを推進するため、本市の人づくりの現状や今後の課題、社会総ぐるみで人づくりを推進する仕組みなどの推進方策について、審議し、意見を聴取することを目的とする。

2 検討経過

回	開催日	主な内容
第1回	H23. 8. 8	○人づくり推進に係る取組み状況及び今後の進め方について ○人づくりに関する市民意識調査の実施について
第2回	H23. 10. 31	○人づくりに関する市民意識調査の調査結果（速報）について ○人づくりに関する各委員からの意見について ○人づくりの現状について ○社会総ぐるみによる人づくりの目指すべき姿について
第3回	H24. 1. 16	○今後の方向性及び推進方策について （グループワークによる検討）
第4回	H24. 3. 22	○推進方策とその具体的内容について （グループワークによる検討）
第5回	H24. 9. 26	○提言素案について
第6回	H24. 11. 8	○提言決定 ○提言書提出

3 提言内容【別冊参照】

(1) 取組の方向性

家庭や学校、地域、企業などの活動主体や子ども、親、高齢者などの世代の違いを超えて、理解・協力し合うことにより、一人ひとりの意識や行動を変革し、日常生活の中で人づくりの意識を着実に根付かせていく。

(2) 具体的方策について

① 市民全体で心を一つに合わせて取り組もう

子どもから大人まで全ての人が分かるような、簡単でインパクトのある言葉、宇都宮のよさを訴えられる言葉、楽しさや希望が感じられる言葉などで、目標やスローガン等をつくり、市民一人ひとりの具体的取組につなげる。

② 横のつながりを深め、活動を広めよう

小さな活動でも点から面へ広がり、大きな力となる。人づくりの大きなうねりを作り出すため、学校や地域、企業、行政のネットワーク化を図り、共有化した方向性のもとに継続的活動を推進する市民組織や活動を市全体に広めていく仕組みが必要である。

③ みんなで子どもの夢を育める環境（社会）をつくろう

子どもたちの教育は、本来、家庭が基本であるが、地域や企業にも子どもたちの育成のためにできることがあり、心豊かでたくましい子どもを育成する上での問題や課題について、みんなで考え、それぞれの立場でできる役割を担っていく必要がある。

3 今後のスケジュール

- | | |
|--------|---|
| 平成24年度 | 取組目標策定に向けた人づくりフォーラム実行委員会への働きかけ
関係課間の事業の調整等を行う庁内調整会議の設置 |
| 平成25年度 | 取組目標検討、策定 |

宮っこ未来ビジョンの実現に向けた提言「社会総ぐるみによる人づくりの推進」(概要版)

「宇都宮に住んで良かった」、「宇都宮にずっと住みたい」という思いを持って幸せな人生を過ごすことができるように・・・

- ・どんなときにも「人に対する愛情(思いやり)」と「よりよい社会を目指す情熱(社会力)」が大切
- ・あいさつやコミュニケーションは、その先にある新しいものの創造につながる全ての資質・能力の基本
- ・すべての教育は、大人を手本としている。

本市の人づくり(宮っこ未来ビジョン)

- 「心豊かでたくましく生きる人を目指して」を基本理念に掲げ、「学び」を通じた望ましい人づくりを推進するための基本的な考え方や家庭・地域社会・行政の役割、それらの連携のあり方などを示している。
- 現在では、「魅力ある学校づくり地域協議会」や「宮っ子ステーション」の設置などのように、市民が人づくりの活動に参加、参画する機会も増えている。
- 人づくりの根底である心を育むため、市民一人ひとりの日常生活の中に人づくりの意識をしっかりと根付かせ、社会全体が一つとなって取り組める仕掛けが必要である。

人づくりの現状

- 人と人が会話し、家庭や地域、社会の中でつながりを感じられるようになることが、各世代を通じて強く求められている状況にある。

- ・地域コミュニティ意識の低下や連帯感の希薄化が指摘され、本市でも約5割の人が地域の教育力が低下していると考えている。原因として、個人主義の浸透などのほかに、マンションの増加や転入世帯の増加、リーダーの不足なども指摘されており、居住環境の変化から近所同士の関係構築が困難になっている。
- ・これからの社会を生き抜くために必要な力として最も多かったものが、これまでは「善悪を判断する力」や「社会や集団ルールの遵守」であったものが「人間関係構築力」へと変化している。
- ・すべての年代を通じて約半数以上の人々が親しく話ができたり、困ったときには助け合ったりする近所づきあいを希望している。

- 地域や行政において様々な取組が行われているが、各主体の横のつながりが少なかったり、世代によって求めるものが異なっていたりなど、全市をあげて目標を共有して取り組んでいるという意識が持てない状況にある。

- ・今、地域やPTA、学校、行政などどこでも、子どもたちの育成に関する活動に一生懸命取り組んでいるが、それぞれ個々に頑張っていて、横のつながりが少なく、さらに地域の中では、同じ人があちこちの団体に参加し、一人で何役も就いているような状況もある。
- ・人と人とのつながりの希薄化の延長として、世代間のつながりも分離し、世代ごとに孤立感を感じる状況も危惧される。特に、子育て世代と子育てを終えた世代の家庭教育に求めるものの違いが顕著であり、世代によって人づくりに対する考え方が異なっている。
- ・行政では、様々な部署において社会全体で子どもを育むことを目的とした多種多様な事業を実施している。

- 子どもたちを育成するために、社会総ぐるみで取り組まなければならない状況にある。

- ・子どもたちの育成において、第一義的責任を有する家庭の教育力の向上は不可欠だが、昔は多くの地域で行われていた様々な体験活動等の教育的役割も忘れてはいけない。
- ・家庭については、親学出前講座などの取組によって、保護者の意識も着実に高まってきている一方で、子どものしつけを学校に任せきりといった保護者も見受けられ、家庭がしっかりと役割を果たしていかなければならない。
- ・そのためには、親に対する学習機会の提供、子どもへの体験活動機会の提供のほか、親の相談機会の充実や労働時間の縮減など、親が子どもと向き合う時間と心を支えることが非常に重要となっている。
- ・地域の子どものための活動への参加状況については、積極的またはときどき活動している人が全体として2割半ばであるが、子育て世代に限ると約3~4割が活動している。子どもの卒業と同時に地域活動から退いたり、忙しいという理由で地域活動に参加しない人も多い状況にあり、今後の地域活動の担い手不足や活動量の減少が懸念される。
- ・父親の家庭での教育や地域活動への参加についても、依然として十分な活動ができているとは言えず、労働時間の縮減など、引き続き企業の理解や協力が不可欠である。
- ・子どもの忍耐力の欠如や道徳心の不足、集団行動や人間関係の未熟さがよく指摘されているが、大人力の不足、特に大人のモラルの低さも原因であると考えられ、地域の大人としてできることを考えていかなければならない。

取組の方向性

市民一人ひとりの意識と行動が変わるために

子どもの模範たるべき大人として、未来を生きる子どもたちを育てるという責任を自覚し、日常的な小さなことから人づくりの行動につなげていかなければならない。

家庭、地域、学校、企業などの活動主体や子ども、親、高齢者などの世代の違いを超えて、理解・協力し合うことにより、一人ひとりの意識や行動を変革し、日常生活の中で人づくりの意識を着実に根付かせ、社会総ぐるみで人づくりを推進できることを目指す。

具体的方策

① 市民全体で心をつなげて取り組む

社会総ぐるみで人づくりに取り組むためには、みんなが一体化できる目標を設定することが有効である。

子どもから大人まで全ての人に分かるような、簡単でインパクトのある言葉、宇都宮のよさを訴えられる言葉、楽しさや希望が感じられる言葉などで、目標やスローガン等をつくり、市民一人ひとりの具体的取組につなげることで、みんなで取り組んでいるという意識も高まる。さらには、家庭や学校、地域の団体等が同じ方向を向き、一体となって人づくりに取り組む上でも効果的である。

条例についても検討したが、まずは身近なところから具体的な行動に移すことが効果的であり、市全体の機運が高まってきたときに検討すると良い。

〔一体感を醸成するその他の取組例〕

- ・「こども週間」や「〇〇月間」などを設定する
- ・「子ども会議」などを通じた、子どもの視点を取り入れる
- ・栃木県が制定した「とちぎの子ども育成憲章」を活用する

② 横のつながりを深め、活動を広める

小さな活動でも点から面へ広がり、大きな力となる。人づくりの大きなうねりを作り出すため、学校や地域、企業、行政のネットワーク化を図り、共有化した方向性のもとに継続的活動を推進する市民組織や活動を市全体に広めていく仕組みが必要である。

当「宇都宮の人づくりを考える会議」などの既存組織を活用し、機能的な体制を構築するとともに、活動を市民に知ってもらえるよう発信力の強化が必要である。

〔横のつながりを意識した取組例〕

- ・地域コミュニティセンター等を活用して「イクメン」を集め、親世代を地域に取り込む
- ・高齢者世代による「応援団」が学校や地域で活躍する
- ・各種の地域活動の調整やつなげる役割を担う「地域コーディネーター」を設置する

③ みんなで子どもの夢を育める環境をつくる

子どもたちが達成感を感じたり、地域の異年齢・異世代の人々との交流の中から楽しさや喜びを感じたりするような経験が重要である。また、目標を見失いかけた子どもたちには、もう一度立ち上げられる機会を作ってあげることが大切である。

子どもたちの教育は、本来、家庭が基本であるが、地域や企業にも子どもたちの育成のためにできることがある。

心豊かでたくましい子どもを育成する上での問題や課題について、みんなで考え、それぞれの立場でできる役割を担っていく必要がある。

〔取組例〕

- ・親と一緒に授業を受けたり、子どもによる親の職場参観を実施する
- ・現在課題となっている携帯電話やインターネットへの対応について考える
- ・栃木県PTA連合会が策定した「いい親の日」宣言を活用する
- ・子どもが良いことをしたらポイントがたまるご褒美制度や子ほめ(表彰)制度を実施する
- ・子どもが楽しさや達成感を味わえるイベントを実施する

宮っこ未来ビジョン実現に 向けた提言書

「社会総ぐるみによる人づくりの推進」

心をひとつに合わせてみんなで行動しよう

平成24年11月

宇都宮の人づくりを考える会議

目 次

はじめに	1
I 本市における人づくりの取組等について	2
1 「人づくり」への思い	
2 「宮っこ未来ビジョン」について	
3 本市の人づくりに関する現状	
II 市民一人ひとりの意識と行動が変わるために	7
1 取組の方向性	
2 具体的方策について	
3 実施に向けて	
むすびに	11

資料編

はじめに

インターネットや携帯電話の普及など、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化することによって、「人間関係をうまく築けない」、「心に不安を持っている」、「目標を見失いかけている」など、様々な悩みを抱えている子どもたちが増えています。

このような困難な状況におかれている子どもたちがいたら、私たち大人は、自分の子どもかどうにかかわらず、見て見ぬふりをすることは決してできないと思いませんか？「どう行動したらいいのか」、「何ができるのか」。私たちは、こんな問題意識をもって、宇都宮の人づくりについて考えてきました。

これまで、宇都宮市では、平成17年9月に本市独自の人づくり指針「宮っこ未来ビジョン」を策定し、「心豊かでたくましく生きる人」を目指した人づくりに取り組んできました。このような中、これまでに親学や食育の推進、「魅力ある学校づくり協議会」の設置、今年度から全市実施された「小中一貫教育と地域学校園」など、人づくりを推進する様々な施策事業が行われるとともに、地域の中においても、子どもたちの体験活動や世代間交流を促進するお祭りなどの様々な活動が行われています。

また、平成18年12月には、日本の教育の基本を定める「教育基本法」に、学校や家庭、地域住民等が教育においてそれぞれの役割と責任を自覚することはもとより、相互の連携協力を努めることが規定されるなど、社会総ぐるみによる人づくりが改めて重要視されています。

こうした取組や社会の動きを踏まえ、悩みがあってもそれを自分で解決できるたくましい宮っこを育てるためには、これからは、市民一人ひとりが日頃より意識的に人づくりに取り組んでいくとともに、家庭や学校、地域、企業、行政が、同じ方向を向いて一丸となって取り組んでいくことが、人づくりの「ポイント」であり、宇都宮市全体で一歩前に踏み出す時期に来ているのではないのでしょうか。

こうした状況を踏まえ、「宇都宮の人づくりを考える会議」では、宮っこ未来ビジョンに掲げる目標の実現に向けて、市民運動のような社会総ぐるみによる人づくりの取組を推進するための具体的方策について検討を行い、その結果を提言としてまとめることといたしました。

I 本市における人づくりの取組等について

1 「人づくり」への思い

「人づくり」という言葉に対して、人は皆それぞれに思いを持っています。こうした中においても、「宇都宮に住んで良かった」、「宇都宮にずっと住み続けたい」と思いを持ちながら幸せな人生を過ごすことができる社会をつくることは、宇都宮市民にとって共通の思いであり、その実現のために活躍する人材を育成することが何よりも重要です。

人づくりの根底は「心」であり、どんなときにも「人に対する愛情（思いやり）」と「よりよい社会を目指す情熱（社会力※）」が大切です。また、あいさつやコミュニケーションは、新しいものを創造していくことにつながる全ての資質・能力の基本であり、これからの社会を生き抜くために必要不可欠なものであると思います。

さらに、すべての教育は大人を手本として成り立っていると言われます。人づくりは、時間と労力が非常にかかるものですが、大人が襟を正して行動することが、人づくりを進める上での近道であると考えます。

2 「宮っこ未来ビジョン」について

(1) 市民と行政が共有する人づくりの指針

平成17年9月に、市民と行政が共有する人づくりの指針となる「宮っこ未来ビジョン」が策定されました。宮っこ未来ビジョンでは、基本理念を「心豊かでたくましく生きる人を目指して」とし、「学び」を通じた望ましい人づくりを推進するための基本的な考え方や家庭・地域社会・行政の役割、それらの連携の在り方などを示しています。

【宮っこ未来ビジョン（基本的な考え方）】

■ 基本理念

心豊かでたくましく生きる人を目指して

一心の触れ合う「対話」と未来を切り拓く「創造」を通して

■ 基本目標

- ① 目標の実現に向けて、自らの責任において主体的に行動します。 【自己実現】
- ② 生涯を通じて学び続け、課題解決に努めます。 【課題解決】
- ③ ものづくりを通して、つくる喜びを感じ、技術・文化の伝承や科学の理解に努めます。 【技術・文化の伝承、科学の理解】
- ④ 他者を思いやり、様々な人々と協力して、共に生きるよう努めます。 【思いやり・共生】
- ⑤ 自国文化や異なる文化を理解し、新しい文化の創造に努めます。 【文化創造】
- ⑥ 社会のきまりを守り、協力し合いながら生活できるように努めます。 【きまり遵守】
- ⑦ 生涯にわたってスポーツに親しみ、健康や体力の保持・増進に努めます。 【健康・体力の保持増進】

※社会力：「人が人とつながり、社会をつくっていく力」という意味の筑波学院大学門脇学長による造語。

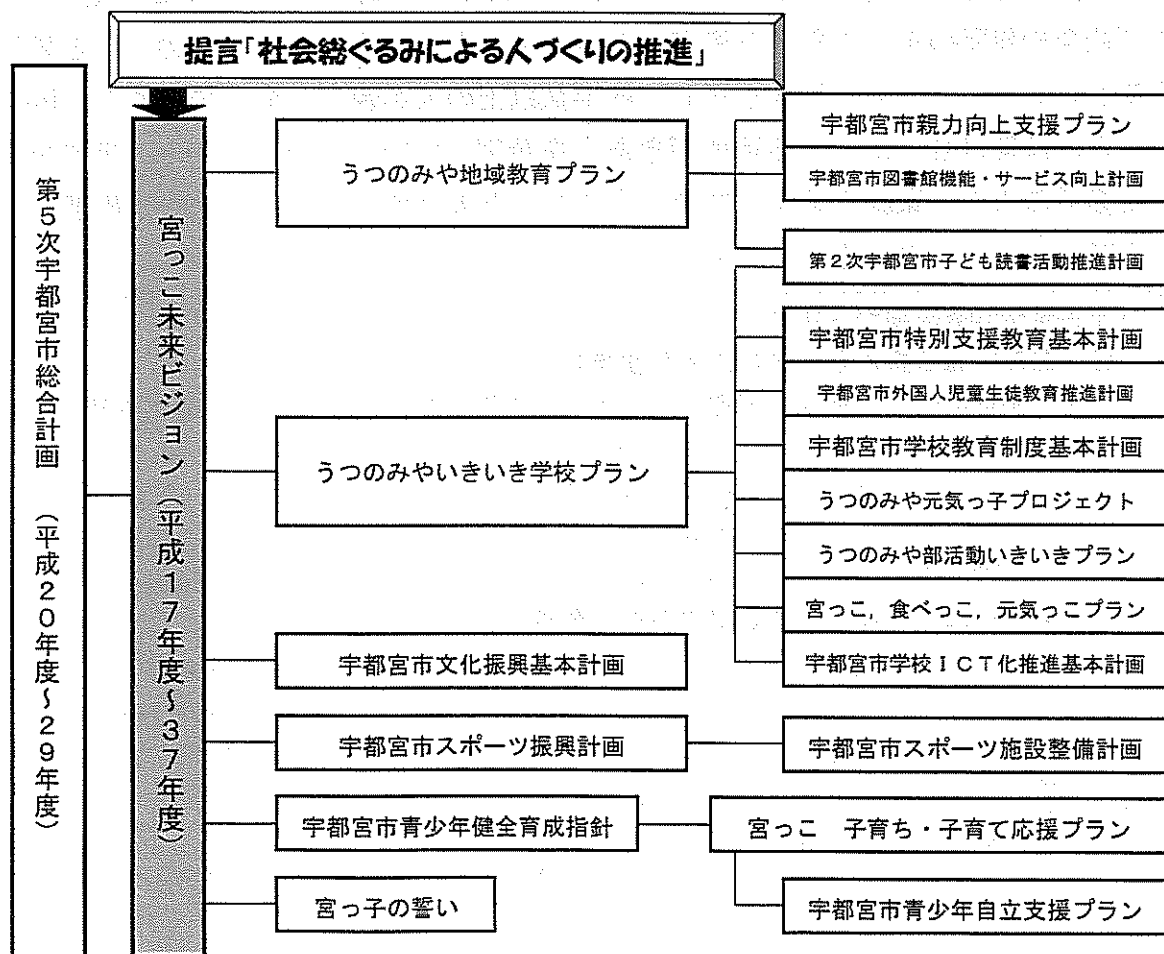
(2) ビジョン実現に向けて

「宮っこ未来ビジョン」策定後は、学校教育や社会教育、文化・スポーツなどの分野において様々な事業が行われ、現在では、地域内における育成活動はもちろん、「魅力ある学校づくり地域協議会」や「宮っ子ステーション」などにおいて市民が人づくりの活動に参加、参画する機会も増えています。

しかし、宮っこ未来ビジョンに掲げる人づくりを進めるにあたっては、学校教育や社会教育などの教育分野や個人、家庭、学校などのそれぞれの立場を超えて、人づくりの基本理念や各ライフステージにおける目標、それぞれの役割を「共有」し、また世代を超えて互いに「対話」して、身近なところから人づくりの取組を行うことが必要不可欠です。

人づくりの根底である心を育むため、市民一人ひとりの日常生活の中に人づくりの意識をしっかりと根付かせ、家庭や学校、地域、企業、行政が連携をしながら、社会全体が一つとなって取り組める仕掛けが必要であると考えます。

【宮っこ未来ビジョンの各種計画との位置付け等】



3 本市の人づくりに関する現状

「宇都宮の人づくりに関する市民意識調査（平成23年9月宇都宮市教育委員会調査）」などの調査結果や各種団体における人づくりの取組事例などを踏まえ、本市の人づくりの現状について次のようにまとめました。

○ 人と人が会話し、家庭や地域、社会の中でつながりを感じられるようになることが、各世代を通じて強く求められている状況にある。

近年、地域コミュニティ意識の低下や連帯感の希薄化が指摘され、本市でも約5割の人が地域の教育力が低下していると考えています。この原因として、個人主義の浸透などがあげられますが、マンションの増加や転入世帯の増加、リーダーの不足などを原因として指摘する人も増加しており、居住環境の変化から近所同士の関係構築が困難になっている状況が伺えます。

このような中、市民意識調査の結果などによると、これからの社会を生き抜くために必要な力として最も多かったものが、これまでの「善悪を正しく判断できる力」や「社会や集団のルールを守る姿勢」から「よりよい人間関係を築く力」へと変化するとともに、すべての年代を通じて約半数以上の人々が親しく話ができたり、困ったときには助け合ったりする近所づきあいを希望していることなどから、世代を超えた多くの人が、家庭や地域、社会の中での人と人とのつながりについて課題として認識しているものと思われます。

【市民意識調査結果から抜粋】

- おおむね6歳から15歳未満の少年期
 - ・ 地域活動への参加状況や近所の大人との関わりが、中学進学を境に急激に低下
地域活動へいつも（ときどき）参加する割合 小6：76.7%，中2：59.0%
 - ・ 近所の大人とよく（ときどき）話す割合 小6：78.5%，中2：59.9%
 - ・ 自分が大人になった時は親しく話ができるような近所づきあいを期待
家族同様の（親しく話しをする）つきあいを希望する割合 全体83.4%
- おおむね15歳から30歳未満の青年期
 - ・ 中学生期を境に年齢が高くなるにつれて地域活動の経験が減少
何もしたことがない 15～19歳：53.2%，20～24歳：67.3%，25～29歳：63.4%
 - ・ ほとんど近所づきあいをしていない人が約4割いるが、全体で約7割の人が今後は困った時には助け合ったり、挨拶を交わしたりする関係を希望
- おおむね30歳から65歳未満の成人期
 - ・ 地域とのつながりを持ってない大人が増加していることについて、小中学生も含めたすべての世代が問題視

○ 地域や行政において様々な取組が行われているが、各主体の横のつながりが少なかったり、世代によって求めるものが異なっていたりなど、全市をあげて目標を共有して取り組んでいるという意識が持てない状況にある。

今、地域やPTA、学校、行政など、どこでも子どもたちの育成に一生懸命取り組んでいると思われませんが、それぞれ個々に頑張っている、横のつながりが少なく、さらに地域の中では、同じ人があちらこちらの団体に参加し、一人で複数の役割に就いているような状況もあります。

また、人と人とのつながりの希薄化の延長として、世代間のつながりも分離し、世代ごとに孤立感を感じる状況も危惧されます。特に、子育て世代と子育てを終えた世代の家庭教育に求めるものの違いが顕著であるなど、世代によって人づくりに対する考え方が異なっていることが伺えることから、全市をあげて同じ目標を共有して取り組んでいるとは言えないと思われまます。

さらに、行政では、様々な部署において社会全体で子どもを育むことを目的とした多種多様な事業を実施しておりますが、今後の課題として、一人ひとりの意識高揚や社会全体の機運醸成、人材の掘り起こしや育成を挙げています。

このように、家庭や学校、地域、行政の横のつながりが少なかったり、世代間での人づくりに対する認識が異なっていたりという現状を改善し、目指すものやあるべき姿を一本化して分かりやすくするなど、目標を共有することができれば、相当の力を発揮できると考えます。

【世代間で家庭教育等に求めるものの違い】

	家庭教育	地域活動	企業活動
これから子育てする世代	・親の勤務時間の短縮や 休暇の増加が有効	・地域活動への参加のきっかけが得られず	・従業員に対する職場環境（休暇制度や労働時間等）を整備すべき
子育て世代		・地域活動への参加意欲は高いが、仕事や自分のことなどで時間に余裕なし	
子育てを終えた世代	・家庭教育の親自身の学びの機会の提供が有効 ・困ったときに助言する相談機会の提供が有効	・地域活動への参加のきっかけが得られず	・社会体験活動などへ協力すべき

(宇都宮の人づくりに関する市民意識調査 (H23. 9))

○ 子どもたちを育成するために、社会総ぐるみで取り組まなければならない状況にある。

子どもたちの育成において、第一義的責任を有する家庭の教育力の向上は不可欠ですが、昔から多くの地域で行われていた様々な体験活動や多様な人間関係が担ってきた教育的役割も忘れてはいけません。また、携帯電話、インターネットなど、社会の変化などから生じる新たな課題への対応も必要です。

このような中、家庭については、親学出前講座などの取組によって、「親学」という言葉が保護者に浸透し、親としての責任の重さなど、保護者の意識も着実に高まってきている一方で、未だ子どものしつけを学校に任せきりといった保護者も見受けられることから、引き続き、家庭の教育力の向上に努めなければなりません。そのためには、親に対する学習機会の提供、子どもへの体験活動機会の提供はもちろんですが、親の相談機会の充実や労働時間の縮減など、親が子どもと向き合う時間と心を支えることが非常に重要となっています。

また、地域においては、子どもたちのための活動への参加状況について、積極的またはときどき活動している人が全体の2割半ばであり、子育て世代に限ると約3～4割が活動しています。しかしながら、子どもの卒業と同時に地域活動から退いたり、忙しいという理由で地域活動に参加しない人も多い状況にあり、今後の地域活動の担い手不足や活動量の減少が懸念されます。

父親の家庭での教育や地域活動への参加についても、依然として十分な活動ができているとは言えず、労働時間の縮減など、引き続き企業の理解や協力が不可欠であります。

さらに、子どもの忍耐力の欠如や道徳心の不足、集団行動や人間関係の未熟さがよく指摘されていますが、それは大人力の不足、特に大人のモラルの低さも原因であると考えられ、地域の大人としてできることを考えていく必要があります。

未来を担う子どもたちの教育環境をより良くしていくため、家庭はもちろんですが、社会全体で動かなければなりません。

【市民意識調査結果から抜粋】

- 子どもの健全育成のために地域が力を入れるべきこと
 - 大人自身のマナーやモラルを向上させる 50.7%
 - 子どもに礼儀やしつけをしっかりと教える 35.3%

Ⅱ 市民一人ひとりの意識と行動が変わるために

1 取組の方向性

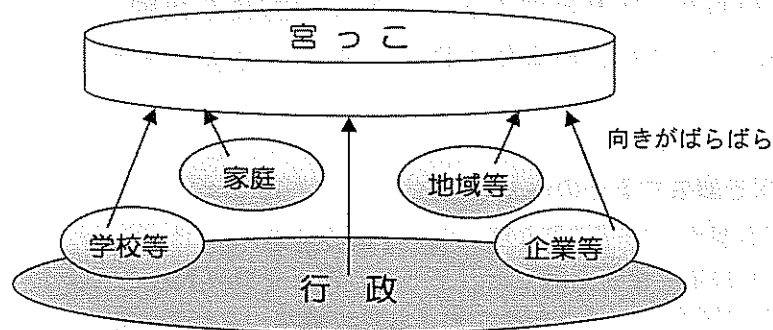
社会総ぐるみによる人づくりを推進するためには、これまで行政が中心となって取り組んできた、青少年や家庭、企業等に対する意識や能力、行動等の育成・向上を図る直接的な取組や支援についても引き続き充実していくことも必要ですが、より一層の人づくりの推進を図るためには、われわれ大人一人ひとりが、子どもの模範たるべき大人として、未来を生きる子どもたちを育てるという責任を自覚し、日常的な小さな事から人づくりの行動につなげていかなければなりません。

そこで、家庭、地域、学校、企業などの活動主体や子ども、親、高齢者などの世代の違いを超えて、理解・協力し合うことにより、一人ひとりの意識や行動を変革し、日常生活の中で人づくりの意識を着実に根付かせ、社会総ぐるみで人づくりを推進することができるよう、次の方策を提案します。

【取組の方向性（イメージ）】

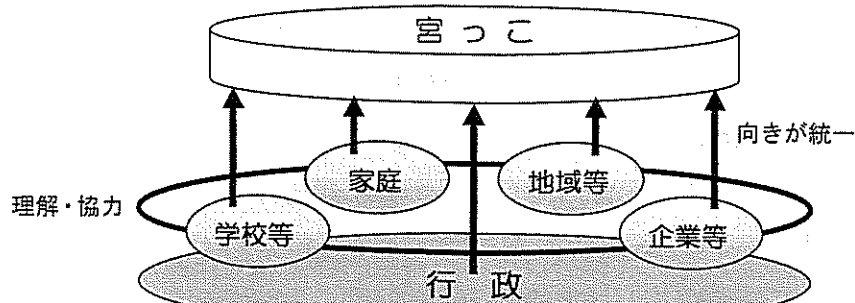
【現状】各主体がそれぞれ活動する人づくり

各主体がそれぞれ活動しているため、同じ方向を向いた活動ができていない。



【将来】各主体が理解・協力した社会総ぐるみによる人づくり

家庭、学校、地域、企業等が理解・協力し、同じ方向を向きながら社会総ぐるみによる人づくりを行う。



2 具体的方策について

① 市民全体で心を一につに合わせて取り組もう

人づくりビジョンは、本市の人づくりの大きな目標ではありますが、社会総ぐるみで人づくりに取り組んでいくためには、まちづくりや学校教育、家庭や学校、地域などの区分けをせずに、みんなが一体化できる目標を設定することが有効であると思います。また、人は楽しいと感じられると継続する力が生まれます。

子どもから大人まで全ての人分かるような、簡単でインパクトのある言葉、宇都宮のよさを訴えられる言葉、楽しさや希望が感じられる言葉などで、大人が宮っ子の誓いの模範を示すための目標や、餃子日本一・あいさつ日本一といったスローガン、合言葉などをつくり、市民一人ひとりの具体的な取組につなげることで、みんなで行っているという意識も高まるものと思います。さらには、家庭や学校、地域の団体などの様々な活動主体が、同じ方向を向き、一体となって人づくりに取り組む上でも、非常に効果的であると思います。

また、手法の一つとして、条例の制定についても検討しましたが、人づくりを推進する上では、まずは身近なところから具体的な行動に移すことが効果的です。一定の強制力があり、作りあげるまでに多くの意見を集約し、十分議論を重ねる必要がある条例については、市全体の機運が高まってきたときに検討するとよいと考えます。

〔一体感を醸成するその他の取組例〕

- ・「こども週間」や「〇〇月間」などを設定する
- ・「こども会議」などを通じた、子どもの視点を取り入れる
- ・栃木県が制定した「とちぎの子ども育成憲章」を活用する

② 横のつながりを深め、活動を広めよう

1つ1つは小さな活動でも、その活動を多くの人を知っていたり、お互いに協力しあったりすることによって、人づくりの取組は点から面へと広がり、大きな力となります。宇都宮市において人づくりの大きなうねりを作り出すためには、学校や地域、企業、行政でそれぞれに行われている様々な取組のネットワーク化を図り、共有化した方向性のもとに継続的に人づくりの取組が行われるよう推進していく市民組織や、地域での素晴らしい活動を共通理解し、市全体に広めていく仕組みが必要であると考えます。

市民組織については、当「宇都宮の人づくりを考える会議」などの既存の組織を活用するとともに、実際の活動は地域単位、共通認識を深める活動は市全体で行うなど、活動体として機能するような体制を構築すべきと考えます。

また、地域の活動やそこでごんばっている大人の姿を紹介する広報紙の発行や、実践を共有できる活動発表の場の創出、宮っ子の誓いや市民憲章の徹底した周知など、市民にもっと知ってもらえるよう、市民に対する発信力を強化する必要があると思います。

【横のつながりを意識した取組例】

- ・地域コミュニティセンター等を活用して「イクメン」を集め、親世代を地域に取り込む
- ・高齢者世代による「応援団」が学校や地域で活躍する
- ・各種の地域活動の調整やつなげる役割を担う「地域コーディネーター」を設置する

③ みんなで子どもの夢を育める環境（社会）をつくろう

未来を担う子どもたちの育成は何より大切なことであり、子どもたちが達成感を感じたり、地域の異年齢・異世代の人々との交流の中から楽しさや喜びを感じたりするような経験が重要です。また、目標を見失いかけた子どもたちには、もう一度立ち上がれる機会を作ってあげることが大切です。

子どもたちの教育は、本来、家庭が基本であり、家庭が自立していくことが不可欠ですが、地域や企業にも、それぞれの持つ能力や資本を活用して、子どもたちの育成のためにできることがあります。

心豊かでたくましい子どもを育成する上での問題や課題について、みんなで考え、それぞれの立場でできる役割を担っていく必要があります。

【取組例】

- ・親と一緒に授業を受けたり、子どもによる親の職場参観を実施する
- ・現在課題となっている携帯電話やインターネットへの対応について考える
- ・栃木県PTA連合会が策定した「いい親の日」宣言を活用する
- ・子どもが良いことをしたらポイントがたまるご褒美制度や子ほめ（表彰）制度を実施する
- ・子どもが楽しさや達成感を味わえるイベントを実施する

3 実施に向けて

人づくりは、身近な取組から時間をかけて行うものであり、何から実際に取り組むことができるか、またいかに継続して広めることができるかが鍵となります。そのためには、多くの市民の関心や共感が得られるよう、人づくりの目標や活動方針などについては、市民に分かりやすい言葉で示すなど、市民に受け入れやすくすることが重要です。

このため、まずは既存の組織を活用して、これまでの取組を生かした人づくりを行うことが重要です。具体的には、市内全小中学校で活発に活動している「魅力ある学校づくり地域協議会」などの団体や取組を有効活用し、これらの事例を市民に広く知らせることによってより多くの賛同や協力を得たり、団体間相互に情報交換を行うことにより活動の幅を広げるなどの効果が期待できます。

また、全市統一の取組を強要するのではなく、各主体が主体的に人づくりの方策を選択し、実践することにより、地域ごとに特色のある活動の実現が期待できます。

もちろん、これまでどおり、行政が取り組むべきことは引き続き実施した上で、適切な役割分担のもと、これらの取組を着実に推進できる仕組みを作り、最終的には、市民全体で心を一つに合わせた活動がなされるよう、機運を盛り上げていくとよいと考えます。

むすびに

本会議は、平成23年8月から平成24年11月まで計6回開催し、社会総ぐるみによる人づくりを推進するための具体的方策について検討を行い、提言書としてまとめました。

本提言書では、保護者や学校、地域住民、事業者などすべての大人が共に手を携え、小さなことからでも一歩ずつ前へ着実に進んでいくため、必要と考えた具体的な推進方策について提案しました。

人づくりの根底は「心」であり、どんなときにも「人に対する愛情（思いやり）」と「よりよい社会を目指す情熱（社会力）」が大切です。こうした「思いやり」や「社会力」を育み、子どもからお年寄りまでが、宇都宮市に愛着と誇りを感じながら、生涯を心豊かにたくましく生きることができる人づくりを実現するためには、今、私たち大人は何ができるのか、一人ひとりが真剣に考え、実行する時期に来ています。

この提言をきっかけに、市民一人ひとりが心を合わせ、「宇都宮に住んで良かった」、「宇都宮にずっと住み続けたい」という思いを持って幸せな人生を過ごせる社会をつくる人づくりが取り組まれることを願います。

... (faint text) ...

... (faint text) ...

... (faint text) ...

... (faint text) ...

〔資料編〕

資料 1 宇都宮の人づくりを考える会議委員名簿

資料 2 検討経過

資料 3 人づくりに関する調査結果（要点抜粋）

資料 4 とちぎの子ども育成憲章（栃木県）

資料 5 「いい親の日」宣言（栃木県PTA連合会）



蘇州府志卷之四十五 藝文志 詩詞

蘇州府志卷之四十五 藝文志 詩詞

蘇州府志卷之四十五 藝文志 詩詞

蘇州府志卷之四十五 藝文志 詩詞

蘇州府志卷之四十五 藝文志 詩詞

宇都宮の人づくりを考える会議 委員名簿

氏 名	所属団体等	備 考
木嶋 浩史	宇都宮地区幼稚園連合会 役員	
大柿 みどり	宇都宮市民間保育園園長会 役員	
橋本 和英	宇都宮市小学校長会 評議員	
間宮 栄二	宇都宮市中学校長会 会員	第1回～第4回
海老沢 直行	宇都宮市中学校長会 会員	第5回～第6回
菊地 透	栃木県高等学校長会宇都宮支部 支部長	第1回～第4回
木村 直人	栃木県高等学校長会宇都宮支部 支部長	第5回～第6回
木島 建二	栃木県私立中学高等学校連合会 会員	
沼尾 順市	地域まちづくり協議会 会長	
篠原 秀夫	宇都宮市子ども会連合会 事務局長	第1回～第4回
鈴木 明美	宇都宮市子ども会連合会 事務局長	第5回～第6回
関口 浩	宇都宮市青少年育成市民会議 副会長	
築 博仙	宇都宮市文化協会 常任理事	
○清島 康伸	宇都宮市PTA連合会 常任理事	
武藤 俊夫	宇都宮商工会議所 常議員	
平井 万紀雄	社団法人宇都宮青年会議所 理事	
横堀 章男	株式会社下野新聞社 営業局営業部長	
村岡 大学	株式会社エフエム栃木 常務取締役	
◎渡邊 弘	宇都宮大学教育学部 教授	
保坂 寿	宇都宮市議会議員	第1回～第4回
馬上 剛	宇都宮市議会議員	第1回～第4回
郷間 康久	宇都宮市議会議員	第5回～第6回
櫻井 啓一	宇都宮市議会議員	第5回～第6回
山田 葉子	陽東中学校魅力ある学校づくり地域協議会 副会長兼地域コーディネーター	
永野 重三	清原地区地域スポーツクラブ「いきいきエンジョイ清原」施設部会長	
石井 智子	元宇都宮市教育委員	
古川 弘	陽南中学校おやじの会 顧問	
宇賀神 光夫	公募委員	
小島 渡	公募委員	

(順不同) ◎ : 会長, ○ : 副会長

検討経過

回	開催日	主な内容
第1回	H23.8.8	○人づくり推進に係る取組み状況及び今後の進め方について ○人づくりに関する市民意識調査の実施について
第2回	H23.10.31	○人づくりに関する市民意識調査の調査結果（速報）について ○人づくりに関する各委員からの意見について ○人づくりの現状について ○社会総ぐるみによる人づくりの目指すべき姿について
第3回	H24.1.16	○今後の方向性及び推進方策について （グループワークによる検討）
第4回	H24.3.22	○推進方策とその具体的内容について （グループワークによる検討）
第5回	H24.9.26	○提言素案について
第6回	H24.11.8	○提言決定

人づくりに関する調査結果（要点抜粋）

1 調査概要

	一般市民	小中学生
調査対象者	15～69歳までの宇都宮市民	小学6年生，中学2年生
抽出方法	住民基本台帳による年齢区分別無作為抽出	学校の地区別無作為抽出
調査方法	郵送法	学校配付
調査期間	平成23年9月14日（水） ～9月30日（金）	平成23年9月12日（月） ～9月30日（金）
回答数 （回答率）	2,177名（54.4%）	658名（98.4%）

2 調査結果

- ルールを守れない大人やモラルのない大人が増えている。
- 自分のことだけで他人のことを考えられる人が少ない。

[今の大人について、何か問題を感じていますか。]

- ・ルールを守れない大人やモラルのない大人が増えている（81.4%）

（宇都宮の人づくりに関する市民意識調査・一般市民（H23.9））

[今の社会でもんだいに思うことは何ですか。]

- ・ルールを守らない人が多い（48.7%）
- ・自分のことだけで、他人のことを考えられる人が少ない（40.5%）

（宇都宮の人づくりに関する市民意識調査・小中学生（H23.9））

- 地域教育力の低下の原因に、個人主義の浸透を指摘する市民が多い。
- 近所の人々が親交を深められる機会が不足している。

[地域の教育力の低下の原因はどんなことだと思いますか。]

- ・個人主義の浸透（他人の関与を歓迎しない）（62.1%）
- ・近所の人々が親交を深められる機会の不足（43.4%）

（宇都宮の人づくりに関する市民意識調査・一般市民（H23.9））

- 近所づきあいについて、半数以上が親しい付き合いまで至っていないが、すべての年代で実際の付き合いより親密な関係を理想としている。

[あなたは、近所づきあいをどの程度していますか。]

（単位：％）

	全体	15 -19	20 -24	25 -29	30 -34	35 -39	40 -44	45 -49	50 -54	55 -59	60 -64	65 -69
・とても親しく付き合っている	4.9	5.4	1.9	4.5	3.3	3.2	5.4	3.7	4.6	2.7	5.4	12
・わりと親しく付き合っている	25.1	19.8	18.7	17.2	20.7	21.4	26.3	20.1	27.3	29.9	32.1	31.7
・付き合いはしているが、それほど親しくはない	46.5	44.1	37.4	33.6	35.3	47.6	49.6	55.6	50.5	50.4	48.8	47.6
・ほとんどもしくは全く付き合っていない	21.4	27.9	38.3	43.3	38.6	26.6	17	19.6	17	14.7	11	6.7

（宇都宮の人づくりに関する市民意識調査・一般市民（H23.9））

[今後はどのような近所づきあいをしたいですか。] (単位：%)

	全体	15 -19	20 -24	25 -29	30 -34	35 -39	40 -44	45 -49	50 -54	55 -59	60 -64	65 -69
・住民全ての間で困ったときに互いに助け合う	34.1	37.8	31.8	35.1	35.9	36.1	34.4	38.6	38.7	25.4	30.8	35.6
・気の合う住民の間で困ったときに助け合う	24.1	25.2	19.6	17.2	23.4	23.0	28.6	19.6	23.7	25.0	27.4	26.4
・困った時に助け合うことまではしなくとも、住民みんなで行事等に参加する	9.0	7.2	9.3	6.7	4.3	7.9	6.2	11.1	5.7	14.3	11.0	12.5
・困ったときに助け合うことまではしなくとも、住民間で世間話や立ち話をする	7.1	4.5	8.4	6.7	3.8	8.3	6.7	7.9	11.3	5.8	7.4	6.2
・困った時に助け合うことまではしなくとも、住民間であいさつを交わす	17.5	19.8	21.5	25.4	23.4	17.5	13.4	17.5	13.9	21.0	15.4	12.0
・地域での付き合いは必要ない	0.9	1.8	-	1.5	2.2	1.2	0.9	-	0.5	0.4	1.0	0.5
・わからない	4.5	1.8	7.5	3.0	6.0	4.0	7.1	3.7	4.1	4.0	4.3	2.9

(宇都宮の人づくりに関する市民意識調査・一般市民 (H23.9))

■ 家庭の教育力が低下していると思う（またはだいたい思う）市民の割合が低くなっている。

[家庭の教育力は低下しているという意見がありますが、あなたはどのように思いますか。]

	H23	H19	H15
・思う	37.8%	58.7%	65.1%
・だいたい思う	32.5%	24.4%	26.8%
・あまり思わない	22.0%	6.4%	5.9%
・思わない	3.5%	1.9%	1.8%
・わからない	-	6.0%	-

(宇都宮の人づくりに関する市民意識調査・一般市民 (H23.9))

■ 父親の家庭教育や地域活動へ参加の不足が地域教育力の低下の原因であると考えている市民の割合が減少している。

[地域の教育力の低下の原因はどんなことだと思いますか。]

	H23	H19
・父親の家庭の教育や地域活動への参加の不足	5.9%	26.4%

(宇都宮の人づくりに関する市民意識調査・一般市民 (H23.9))

■ 子育て世代とそうでない世代との活動状況や考え方にギャップが生じている。

	家庭教育	地域活動	企業活動
これから子育てする世代	・親の勤務時間の短縮や休暇の増加が有効	・地域活動への参加のきっかけを得られていない。	・従業員に対する職場環境（休暇制度や労働時間等）を整備すべき
子育て世代		・地域活動への参加意欲は高いが、仕事や自分のことなどで時間に余裕がない。	
子育てを終えた世代	・家庭教育の親自身の学びの機会の提供が有効 ・困ったときに助言する相談機会の提供が有効	・地域活動への参加のきっかけを得られていない。	・社会体験活動などへ協力すべき

[家庭のしつけや教育の充実に有効なものとはどんな取組だと思いますか。] (単位：%)

	全体	15 -19	20 -24	25 -29	30 -34	35 -39	40 -44	45 -49	50 -54	55 -59	60 -64	65 -69
・親の勤務時間の短縮や 休暇の増加	29.3	36.9	49.5	35.8	45.1	39.3	34.4	30.2	20.6	20.5	13.4	19.2
・困ったときに助言する 相談機会の提供	36.1	22.5	34.6	33.6	32.1	32.5	32.6	33.9	42.8	39.3	42.1	41.3
・家庭教育に関する親自 身の学びの機会の提供	31.1	23.4	23.4	31.3	26.1	27.8	32.6	33.9	34.5	35.3	32.4	35.1

(宇都宮の人づくりに関する市民意識調査・一般市民 (H23.9))

[今後地域の子どもと関わる活動に参加したいと思いますか。] (単位：%)

	全体	15 -19	20 -24	25 -29	30 -34	35 -39	40 -44	45 -49	50 -54	55 -59	60 -64	65 -69
・参加したい	38.0	31.5	37.4	34.3	44.6	48.0	42.9	38.6	30.4	31.2	35.5	38.5
・参加したくない	12.3	18.0	15.9	15.7	9.2	11.1	11.6	11.1	12.4	8.9	14.7	11.1
・わからない	44.7	48.6	43.9	47.8	42.9	38.1	38.8	44.4	54.1	54.0	43.5	40.4

(宇都宮の人づくりに関する市民意識調査・一般市民 (H23.9))

[あなたが地域活動をする上で支障となることはどのようなことだと思いますか。] (単位：%)

	全体	15 -19	20 -24	25 -29	30 -34	35 -39	40 -44	45 -49	50 -54	55 -59	60 -64	65 -69
・仕事や自分のことなど で時間に余裕がない	55.1	57.7	52.3	60.4	61.4	64.3	58.0	66.7	66.5	58.0	40.8	27.9
・参加するきっかけが得 られない	32.5	33.3	45.8	35.8	34.8	28.2	26.8	27.0	29.4	33.0	36.1	35.6

(宇都宮の人づくりに関する市民意識調査・一般市民 (H23.9))

[心豊かでたくましい人を育成するために、企業はどのような事に力を入れるべきだと思いますか。] (単位：%)

	全体	15 -19	20 -24	25 -29	30 -34	35 -39	40 -44	45 -49	50 -54	55 -59	60 -64	65 -69
・子どもの豊かな心や職 業観、勤労観などを育成 するため、社会体験活動 などへ協力する	51.8	52.3	54.2	53.0	50.5	52.8	49.6	60.3	56.2	47.8	50.8	46.2
・従業員が十分な家族関 係を築けるよう、職場環 境(休暇制度や労働時 間、親子交流機会など) を整備する	49.7	47.7	63.6	64.2	64.7	55.6	50.4	47.1	47.4	46.0	40.1	36.1

(宇都宮の人づくりに関する市民意識調査・一般市民 (H23.9))

- 子どもの意識としては、学校生活だけで目一杯と感じている割合が高く、体を動かす活動やいろいろな体験活動を増やしてほしいと学校に望んでいる。

[地域活動に参加しない(できない)理由は何ですか。]

H23 H15

- ・体を休める時間にしたいから 15.8% 11.0%

(宇都宮の人づくりに関する市民意識調査・小中学生 (H23.9))

[習い事や文化・スポーツ活動に参加していない理由は何ですか。]

H23 H15

- ・学校の勉強や運動だけで十分だと思うから 26.2% 19.7%
- ・自分の好きなことをする時間がほしいから 11.2% 27.0%

(宇都宮の人づくりに関する市民意識調査・小中学生 (H23.9))

[学校に望むことはどんなことですか。]

- ・遊ぶ時間や体育の時間など体を動かす活動を増やしてほしい (52.4%)
- ・いろいろな体験活動ができるようにしてほしい (51.8%)

(宇都宮の人づくりに関する市民意識調査・小中学生 (H23.9))

[今後、どんな習い事や文化・スポーツ活動に参加したいですか。]

- ・学校で行う運動部の部活動 (45.3%)
- ・近所のグラウンド、体育館やプールなどで行うスポーツクラブ活動 (35.5%)

(宇都宮の人づくりに関する市民意識調査・小中学生 (H23.9))

■ 子どもの地域活動への参加状況や近所付き合いは、中学生で急激に低下している。

[地域での活動(子ども会や育成会の行事など)に参加している]

小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
74.1%	77.2%	76.2%	74.5%	74.1%	69.2%	45.0%	32.9%	25.9%

(学習と生活についてのアンケート結果 (H23.3))

[地域活動に参加したことはありますか。]

	小6	中2
・いつも参加している	31.0%	11.5%
・ときどき参加している	45.7%	47.5%
・ほとんど参加していない	17.5%	28.9%
・まったく参加していない	5.2%	11.2%

(宇都宮の人づくりに関する市民意識調査・小中学生 (H23.9))

[近所の大人と話すことはありますか。]

	小6	中2
・よくある	33.1%	18.0%
・ときどきある	45.4%	41.9%
・あまりない	15.3%	32.3%
・まったくない	5.8%	7.5%

(宇都宮の人づくりに関する市民意識調査・小中学生 (H23.9))

- 教職員や地域住民と比べて、学校と家庭、地域、企業等が連携していると評価する保護者が少ない。
- 全体的には、学校、家庭、地域、企業等の連携・協力が図られているとの評価が年々高くなってきている。

[学校と家庭、地域、企業等との連携・協力を図った取組が推進されている]

①教職員（学校と、家庭、地域、企業等が連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている）

年度	とても思う	まあ思う	あまり思わない	思わない
H22	44.3%	48.4%	6.6%	0.7%
H21	42.7%	50.5%	6.1%	0.7%
H20	36.4%	53.8%	9.3%	0.5%

②保護者（学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている）

年度	とても思う	まあ思う	あまり思わない	思わない	判断できない
H22	30.5%	54.8%	8.3%	1.2%	5.2%
H21	30.0%	54.9%	8.3%	1.3%	5.5%
H20	27.7%	54.3%	10.3%	1.5%	6.2%

③児童生徒（自分は、地域や企業の方々と一緒に活動したり勉強したりすることで、学習が充実し楽しい。）

年度	とても思う	まあ思う	あまり思わない	思わない
H22	51.5%	33.8%	11.3%	3.4%
H21	49.8%	34.0%	12.4%	3.8%
H20	47.7%	33.5%	13.8%	5.0%

④地域住民（学校は、家庭、地域、企業等が連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている）

年度	とても思う	まあ思う	あまり思わない	思わない	判断できない
H22	48.5%	39.1%	5.0%	1.2%	6.2%
H21	48.9%	38.2%	4.5%	0.8%	7.6%
H20	45.5%	38.5%	5.9%	1.2%	8.9%

(うつのみや学校マネジメントシステムにおけるアンケート結果 (H20~H22))



とちぎの子ども育成憲章

明日を担う子どもたちが 夢と希望を持ち
心豊かでたくましく成長することは 県民すべての願いです

わたしたちは 子育てに積極的にかかわり
子どもたちをみんなで育てていく決意を込め ここに憲章を制定します

わたしたちは

一、子どもたち一人ひとりを尊重し 命を大切にします

一、子どもたちとのかかわりを深め
思いやりの心をはぐくみます

一、子どもたちとともに 学び 喜び 励ましあい
社会の一員としての自覚を育てます

一、一人ひとりが子どもたちの手本となるよう行動します

一、とちぎの豊かな自然 伝統 文化を守り
子どもたちに引き継ぎます

平成22年2月9日

栃木県

□「いい親の日」宣言

平成18年12月に改正された教育基本法に「子どもの第一義的責任は保護者にある」と記され、家庭教育力向上のためのさまざまな取り組みがなされております。

高度情報化、グローバル化、それに伴う価値観の多様化など、社会の変わりようは我々保護者の子どもに対する関わり方に大きな変化をもたらしており、私たちはこれらに対しさらなる奮起が求められております。

これまで私たち栃木県PTA連合会は親の学びの大切さを訴え続け、長年にわたり子育てセミナー等を通してその学びの拡充を図ってまいりました。

そこに一定の成果を残すものの、それを上回る速度でさまざまな問題が次々と発生しており、学校に任せきりの現状を打開することが喫緊の課題となっております。

ここに改めて教育責任の分担確認と保護者の資質向上のため、11月8日を「いい親の日」と制定いたします。また、毎月8日を「親の日」とし、下記の指針を示します。

- 一、子どもを大切にします。
- 一、家族団らんの時間を持ちます。
- 一、おとな自ら規範を示します。
- 一、正しい生活リズムをつくります。
- 一、人の悪口を言いません。

2008.08.11

栃木県PTA連合会

三、日 記 類 文 範 文

2011年10月1日 星期三 晴
今天是一个特殊的日子，因为这是新中国的生日。在这举国欢庆的日子里，我的心情格外激动。

清晨，当第一缕阳光洒向大地时，大街小巷都挂满了五星红旗。人们脸上洋溢着幸福的笑容，空气中弥漫着节日的喜悦。我走在街上，看到人们手中挥舞着国旗，心中涌起一股莫名的感动。

回想起祖国走过的历程，从曾经的贫穷落后到如今的繁荣昌盛，从曾经的满目疮痍到如今的国泰民安。这一切都离不开无数先辈们的辛勤耕耘和无私奉献。

作为新时代的接班人，我们肩负着实现中华民族伟大复兴的历史使命。我们要继承和发扬先辈们的优良传统，努力学习，增长才干，为祖国的繁荣富强贡献自己的一份力量。

在这举国欢庆的日子里，我要大声地说：祖国，生日快乐！我们将永远与您风雨同舟，共赴美好未来。

2011年10月1日 星期三 晴

今天是一个特殊的日子，因为这是新中国的生日。

清晨，当第一缕阳光洒向大地时，大街小巷都挂满了五星红旗。

回想起祖国走过的历程，从曾经的贫穷落后到如今的繁荣昌盛。

作为新时代的接班人，我们肩负着实现中华民族伟大复兴的历史使命。

「施策3 レファレンス・課題解決型サービスの強化」に「まちづくり・人づくりの支援」の項目をいれてほしい。

(4) 効果的・効率的な管理運営体制の充実について

- ・ 指定管理者は意識を高くもって仕事をしてほしい。
- ・ 南図書館以外の図書館への導入は慎重に願いたい。
- ・ レファレンスは、司書の知識や経験が重要。指定管理者は3.4年で入れ替わるので慎重に考えたほうがよい。

(5) 施設の再整備の計画的な推進について

- ・ 中央図書館は建築後31年も経つのであれば建て替えしていただきたい。

平成24年宇都宮市成人式 新成人の参加状況・地域交流事業内容等調べ

H24.1.8現在

校 区	成人式会場	担当	司会進行		誓いの言葉		その他		計	主な地域交流事業内容等
			男	女	男	女	男	女		
一条	護国会館	中央	1	1	0	1	地域交流事業の進行1	地域交流事業の進行1 お礼のことは1	6	懇談(クラスごとの記念写真撮影), 恩師からのお祝いのことば, 恩師へ花束贈呈, 新成人代表から地域の方々(来賓も含む)へお礼のことば
陽北	ホテル東日本宇都宮	中央	1	1	1	1	地域交流事業の進行1 お礼のことは1	地域交流事業の進行1	7	懇談(クラスごとの記念写真撮影), 恩師からのお祝いのことば, 恩師へ花束贈呈, 新成人代表から地域の方々へお礼のことば
旭	護国会館	中央	0	2	1	0	お礼のことは1 閉会のことは1	地域交流事業の進行2	7	懇談(クラスごとの記念写真撮影), 恩師からのお祝いのことば・サイコロで出た内容の思い出話, 恩師へ花束贈呈, 新成人代表から地域の方々(来賓も含む)へお礼のことば
陽南	宇都宮グランドホテル	南	1	1	1	1	受付及び閉会のことは1	受付及び閉会のことは1	6	陽南中生徒による吹奏楽の演奏, 懇談, 思い出のスライド上映, 恩師からのメッセージ, 地域クイズ, 新成人代表お礼の言葉, 集合写真
陽西	アピア	西	2	2	1	1	受付2	受付2	10	地域で活躍する合唱とよさこいサークルによる, 新成人へのメッセージを盛り込んだステージ 恩師を囲んでの懇談会, 懇談会の際に各テーブルや全体のスナップ写真撮影, 恩師への花束贈呈
星が丘	アピア	北	1	1	1	1	受付1	接待1	6	新成人感謝のことば, 恩師への花束贈呈, 記念写真撮影
陽東	宇都宮東武ホテルグランデ	東	1	1	1	1	受付3 (案内1, 封筒記載1)	受付2 (案内1, 封筒記載1)	9	恩師からの祝辞, 懇談, 抽選会, 恩師への花束贈呈, スライドショー, スナップ写真コーナーの提供, その他(協賛者への礼状送付)
泉が丘	宇都宮東武ホテルグランデ	東	1	1	1	1	受付2 (案内1, 封筒記載1)	受付1 (封筒記載1)	7	恩師からの祝辞, 懇談, 記念写真, スライドショー, 恩師への花束贈呈, スナップ写真コーナーの提供, その他(協賛者への礼状送付)
宮の原	アピア	西	1	1	1	1	受付1	受付1	6	地域で活躍する和太鼓とよさこいサークルによる, 新成人へのメッセージを盛り込んだステージ 恩師を囲んでの懇談会, クラス単位の集合写真及び懇談会のスナップ写真撮影, 恩師への花束贈呈
清原	ホテルニューイタヤ	清原	1	1	1	1	懇談会司会1 地域交流2 受付3	懇談会司会1 地域交流2 受付3	16	記念写真, 恩師からのメッセージ, 農産物(イチゴ)をとおして地域を知ろう, 中学時代の写真をDVDにして上映
横川	宇都宮ポートホテル	横川	1	1	1	1	開式のことば1 地域交流事業司会1 閉会あいさつ1	閉式のことば1 地域交流事業司会2	10	恩師からのお祝いの言葉, 記念撮影, 恩師への花束贈呈, 地域への感謝や新成人としての抱負などのコメントを書いたカードを模造紙大に作成したアルバムへ貼り付け, モニュメントを作成する
瑞穂野	ヴィラ・デ・マリアーージュ母都宮	瑞穂野	1	1	0	1	地域交流事業司会1 地域交流事業進行1	地域交流事業司会1 地域交流事業進行1	7	クラス別の記念写真, 恩師からのメッセージ, 「20歳へのメッセージ」(小6のリーダー講習会の時に書いたメッセージ)配布, 発表, 抽選会
豊郷	ホテル東日本宇都宮	豊郷	0	2	1	1	乾杯の発声1 感謝の言葉1		6	恩師の言葉, 花束贈呈, クラス別記念写真, 寄せ書き
国本	ホテル東日本宇都宮	国本	1	1	1	1	懇談会1	懇談会2	7	厚紙に想いの一文字を書く, 恩師からのお祝いの言葉, 記念撮影
城山	コンセーレ	城山	2	1	1	1	受付3	受付2	10	写真撮影, 恩師からのメッセージ, 恩師へ花束贈呈, 将来の自分について(メッセージカードに記入), 校歌斉唱
晃陽	大晃大飯店	篠井富屋	1	1	1	1	懇談会2 乾杯1	懇談会2	9	恩師からのお祝いの言葉, 記念写真撮影, 当時のDVD上映, 懇談, 抽選会
姿川	コンセーレ	姿川	2	2	1	0			5	恩師からのメッセージ, 懇談, お世話になった両親・家族等へ感謝の気持ちをハガキに書き郵送する, 地域の特産を生かしたバラを配布, クラスごとに記念撮影をする
雀宮	ホテルニューイタヤ	雀宮	0	2	1	1	開会・閉会のことは1		5	地域の人への感謝のメッセージ, 記念写真撮影, 恩師への花束贈呈, 恩師からのメッセージ, 抽選会, 当時のDVDの上映, 切花(デンファレ)配布(両親等へ感謝のメッセージを添えて持ち帰る)
鬼怒	宇都宮ポートホテル	平石	1	1	1	1	受付1 乾杯1	受付1 来賓2 乾杯1	10	各クラスごとに集合写真を撮り鬼怒川中学校成人式のホームページに載せる, 鬼怒中学校クイズ, 中学三年生の時の合唱コンクールのDVDを上映する
宝木	アピア	北	0	3	0	2			5	恩師からのメッセージを印刷したものを全員に配る, 日光出身のアーティストのライブ, 恩師からのお祝いの言葉, 記念写真撮影
若松原	宇都宮グランドホテル	南	1	1	1	1	受付及び閉会のことは1	受付及び閉会のことは1	6	懇談, 思い出のスライド上映, 新成人の誓いコンテスト, 地域クイズ, 恩師(全員)からのメッセージ, 新成人代表お礼の言葉, 地域交流事業中に恩師を囲みテーブルごとのクラス写真・スナップ写真の撮影
上河内	ホテル東日本宇都宮	上河内	1	0	1	1	受付3 感謝のことは5	懇談会司会1 受付4 感謝のことは6	22	式典終了後来賓在席中に新成人感謝のことばを行う, 恩師(全員から一言)お祝いのことば, 恩師による乾杯の発声, 恩師への花束贈呈, 記念撮影, センターロビーほかにて感謝のことは色紙を一定期間掲示する
古里	宇都宮東武ホテルグランデ	河内	1	1	1	1	地域交流事業司会1	地域交流事業司会1	6	記念写真撮影, 懇談, 恩師からのメッセージ, 恩師への花束贈呈, 立志式作文配布, 中学校時代のDVD上映
田原	二荒山会館	河内	0	1	1	1	受付3 地域交流事業司会1	受付5 地域交流事業司会1	13	記念写真撮影, 懇談, 恩師からのメッセージ, 恩師への花束贈呈, 立志式作文配布
河内	二荒山会館	河内	0	1	1	1	地域交流事業司会2 お礼の言葉1	受付4	10	記念写真撮影, 懇談, 恩師からのメッセージ, 恩師への花束贈呈, 立志式作文配布, 新成人から地域の方々へのお礼の言葉
合 計			22	31	22	24			211	←兼務を含む